新作浜屋

初編

へ13
4289

早稲田文学図書

<97-1071>

浦ばうり

ばうりとふるの道具屋

たきぎ有ばうりくと

よびあるくを聞きつけらとれあんじや

ばうらしや 賣人 うら

ものさき 賣人 ハア 裏

じろうおなんど

菜ハあんう

雲すけ

四人札の辻ふ立ふひるふ

あまどぐれ雨ふそぐ

びんかりして髪つやきモウ

かろうを云ふくたび人

そろくとつけきう見

こゝろすけ 雲 ハイ 旦那人 たつこ

今かごきこーとナ 雲 ハイ〳〵

旦那人 まきみおこ一ばとナ

雲 ハイ〳〵 旦那人 今こてを

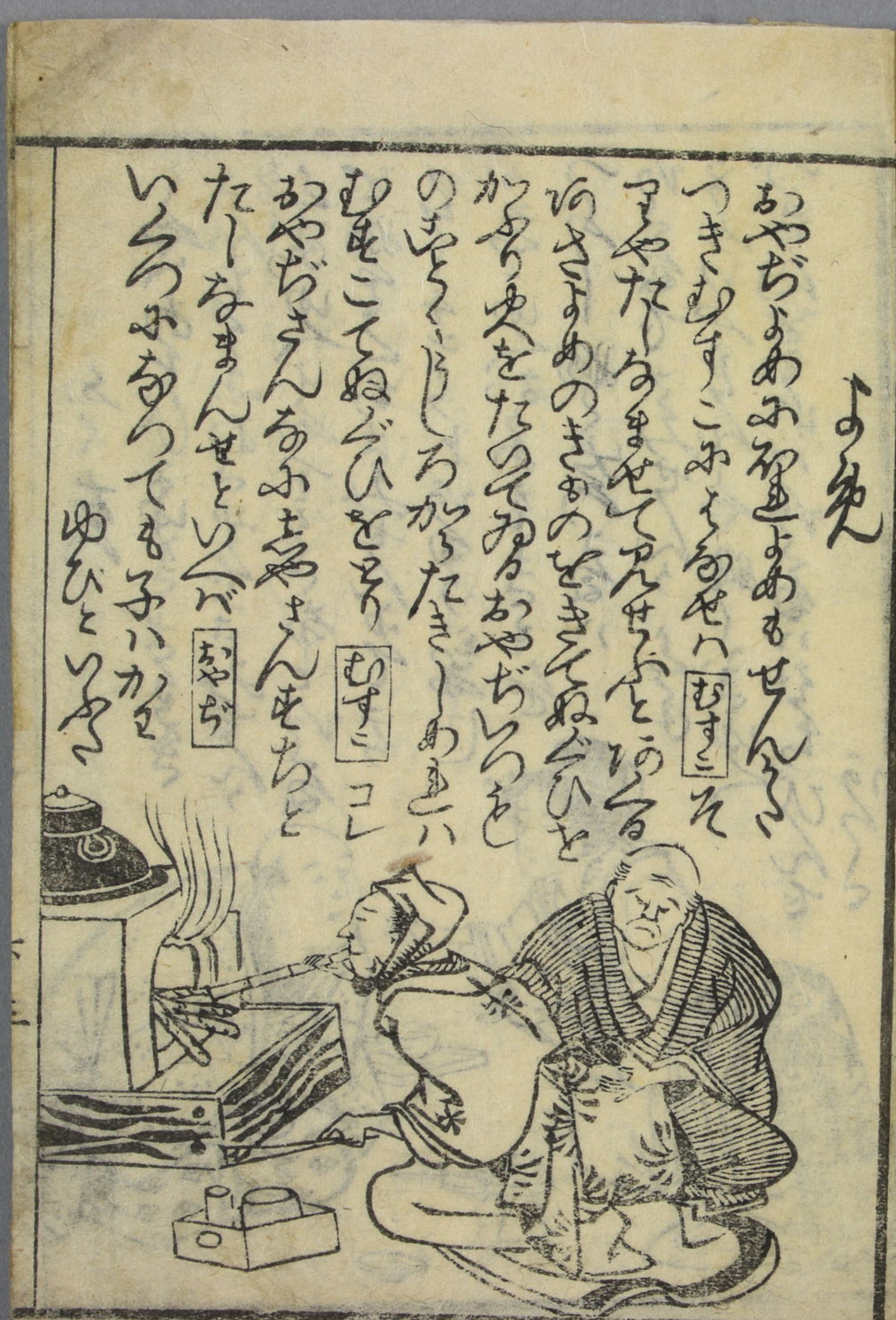
面らあんざう

うけとり
うだいぎんこんきうゆへ
おくの町人こゝへ
なりたちます
なるほど
なるほどおくのこのみ名を付
させよと
仰せられ
仰せられ
おぼしめ
ちよろづ
ちよろづ
ちよろづ
町人

よ免

おやぢよあふ
つきむすこふ
アやたゝなまぜて
のさよめのきものをきてぬぐひを
かぶり史をたつてゐるおやぢいろを
のもとくしろかたきしあまハ
むをこてぬぐひをそり
おやぢさんなふまあさんをちと
たゝなまんせといへ
いろふなつてもふかを
ゆびとい

むすこ
コレ
おやぢ



ふく太郎

くやあそびまゆきさるぎ
さんちうふわさせでさみせんら
ぎりつゆくくやまとさあとひる
を姉やとくちさみせんをて二ウ
ツてチンテツとひるうるまひし
うるくゆくおあもきもを
つぶり姉くたつ夜ハ
ひるまでさみせんら くまま
とるふとんぐや姉くきゆく
づきんをとれバひるまハだ

かゆきくたしたひとりものの敬か遊中ぬをくくくた
まひとりものちんごもまくぶ寝入長るぬをくおよの
とそこちうぐうしたんるもかのもぬをて由ちう
うるくかしぬるくあきんまてくれるとふるる飯
つぎをりうくくきくゆくひとり老 眼をさまし髪をの
ゆくとんくくんものうをてゆゆとおくひるをひ
しうぬをくかをぬきひとりものをとりて飯つぎ
をかくくたぐんぐるうぐ由かんと
をるとうひとうくくるてひとりうものおそるとい鼠
まてをりくとたちてくひ
やめしやナア川

年乃暮れ

サりくせるこふるくさ巳丑春ちとせうきしてゆるぶ一文

もあてがなしいつそもむそんの藏のん物やそてもあ物
をたてとたてけばたりつあるさ物ばかりつけてそらく
とのあるこなるこ藏るそやそこを物来で　あるら
さて御しやや
ぬめんあれのるさあらびちきうが出まを学まんう
まりさそあを朝ばきてのく鬼者のこびとつきうてあらい
るあごさりまんがんなんがはどかやまん学鬼者ハ別して朝
隠うるまふはがつてまんまけて金あるうもます客さを
ならつぎうてやさりませこいそそれかりつありしができ客
かるみかうしし大きんたるるまびれるこだうもうだ出てう
事主ばつりうしを見つぎちんのあるいい客かりうてあき
しやるこまいがナ
朝比奈

小林殿こそといふ法人若我先祖ハ小林の殿比奈
しやとあがんるまんを云ひをふのりのしめ人つれ
るて殿こ殿ば西（ひ）おきへハ殿ひなさ夜のはすく
そうに学ぶりまんそこは先祖さ夜のはるまがうこ西先
をちとひりこあつ来りまんとのそあバ殿こ西先
ふ節時家と第まりを引あいふ節びけをのさ
ひなるこたびひふいやくと引かみ紙つけのいこう
きんくさこまとそのいこりたりそのひまんあり
しやをぬをことりあがんとまを者ごんこつけを
てたくに西ことるんバ拾るつるぎをあつとり西し客
りそれい海土うる殿こ西イや先祖ハ男しや
家　心

ぜんぐにせまりこををそんときこえれいの仙やらチャフンこと
こゝるハテめずらしきとくらべりをさぐりて見まば鶯のよう
なの相ふれさるゆゑさてハ鶯手の郭陸奥天竺より菊
金をこがけのおるを見るを
あぶんをあるめし黄金の玉をかくしをのぶうをさくしを
いくぶんにあるかりよくく見まいたゞ乃龍のぬけ
たの玉、光輝じぶつぐ見るをくく
田舎ゆき乞
云いなるとりさはひ和くぐんぶりて下へんくりしぐ打ひ
大源のまぐおまそたいこぶんくとうれがさはひ大きに笠ろ
くゆ分をふくゆ代や為をさゆゑに鶯りをきれぶんとりハイヤ
ゆ為国をてハを央くせろあのれにたいこをろつあ迫央うと泉
てゆ代ゆのんハまぐおぶ高うまそ侍ぶ果たうゃふぐんな

坐忘